

四季の鳥

私たちの近くに息づく野生

[文・写真] 中田一真

ズグロカモメ

— 冬の日本・カニツアー —

世界に7000〜9000羽程度といわれる希少種・ズグロカモメは、中国東北部沿岸の塩性湿地で繁殖し、日本には冬鳥として飛来する。わが国での主要な越冬地は九州北部の干潟。そのカモメが2001年頃から兵庫県のある河口に毎冬飛来するようになった。

彼らの好物は干潟に生息するカニだ。潮が満ち始めると、どこからか姿を現し、上空をフワフワと飛びまわる。そして、空中の一点で止まったかと思うと、狙いを定め、頭から海中へドボンと飛び込む。次に水中から顔を出

したときにはくちばしにしっかりとカニを挟んでいる。湿地に適応して生きてきた鳥が身に付けた、生きるための技。無駄のない研ぎ澄まされた動作に、思わず拍手を送りたくなる。

日本へのズグロカモメの飛来数は増加しているようだ。そして、兵庫県のこの河口に限った話ではなく、彼らの越冬地は日本列島を東進している。大陸の他国の越冬地で何が起きているのか、九州の干潟がどうなっているのか、もちろん、彼らは何も語りはしない。ただ、新しい干潟を、好物のカニを探して、東へ東へと飛び続けるだけだ。



なかた・かずま

1966年生まれ。会社員、野鳥写真家。
身近な鳥たちの四季折々の姿を20年撮影し続けている。

【中田一真のホームページ】

<http://www.asahi-net.or.jp/~jx7k-nkt/>

ズグロカモメ チドリ目カモメ科
全長32cm

【撮影地】兵庫県

©NAKATA Kazuma